



8月4日 中学校生活に向けて 市内小学6年生ら親睦深める

市内の小学6年生を対象に、生徒同士が交流を深め、中学校生活に向けて期待と目標を持ってもらおうと串間中学校で「合同学習会」が行われました。市内の小学校10校の児童約120人が参加し、体育、理科、美術のそれぞれの科目に分かれて中学校の先生による授業を受けました。理科の授業では、グループに分かれて自己紹介からスタート。その後薬品を使った実験が行われ、児童たちは協力しながら学校の垣根を越えて親睦を深めていました。都井小学校6年生の田中楓恋さんは「初めての友だちもいたので緊張したが楽しかった。中学生に向けてさらに勉強を頑張りたい」と話していました。



薬品を使って水溶液を特定する実験を行う児童ら

8月6日 前田集まろう会に 山村集落リフレッシュ支援事業支援金交付

(一社)宮崎県治山林道協会は毎年、宮崎県が指定している、元気な集落づくりに取り組んでいる「いきいき集落」などの団体を対象に、自然環境の保全などの取り組みに対して支援金を交付する「山村集落リフレッシュ支援事業」を行っています。今年度、本市の「前田集まろう会(前田・越ヶ谷集落)」が対象となり、市役所で交付式が行われました。同会は、50年ほど前から草刈りや排水清掃、花植えなどの活動を行っており、支援金は観賞用樹木の植栽や景観の維持管理などに活用される予定です。



支援金の交付を受けた前田集まろう会の皆さん

8月12日 花火で串間を元気に 夜空に大輪舞う

新型コロナウイルス感染症と甘藷基腐病の早い終息を願うのと、7月に行われた「県高校野球大会2020」で福島高校野球部がベスト8入りした健闘を祝い、有志が花火を打ち上げました。花火は蔵元橋付近の河川敷で午後8時から打ち上げを開始。3密を避けるため入場は禁止していましたが、会場周辺では多くの市民の皆さんが夜空に舞う花火を見上げていました。串間中学校1年生の吉田優菜さんは「打ち上げ花火を本当に楽しみにしていた。花火はとてもきれいで忘れられない日になった。ようやく夏が来たと感じることができた」と話していました。



75発の大輪の花火が 夜空を彩っていました



7月13日 テレビ会議システムを利用し 子育て応援を宣言



応援宣言をする市長

宮崎県は新型コロナウイルス感染症の感染拡大リスクに対応しながら各市町村との緊密な連携を図るため、県と市町村を結ぶテレビ会議システムを構築したことによる、開通式を実施しました。併せて子どもや子育て家庭を県民全体で応援する機運を醸成するため、知事と県内市町村長による「みやざき子育て応援宣言」が同システムを活用して行われました。市長は「安心して子育てできるように、子育て世帯の経済的負担軽減を図ります」と宣言しました。

7月28日 パッションフルーツ収穫の時期を迎える

市木地区で農業を営んでいる磯崎義孝、由美子さん夫婦が栽培する亜熱帯地域が原産のパッションフルーツが収穫のピークを迎えました。4年前から自宅の庭に高さ約2メートルの棚を手作りして栽培しており、手作業で1つ1つ収穫していました。パッションフルーツは種ごと食べられて、トロピカルな香りと甘酸っぱさが特徴です。義孝さんは「今年もきれいにできた。輪切りにしてそのままスプーンで食べるのが酸味と香りをより楽しめておすすめ」と話していました。



手作業で収穫を行う義孝さん

7月31日 長崎原爆の日を前に 千羽鶴贈呈



千羽鶴は休み時間や放課後などの空いた時間を使って制作されました

8月9日の長崎原爆の日を前に平和への願いを届けようと、秋山小学校で長崎市の原爆爆心地付近にある山里小学校へ届けられる千羽鶴の贈呈式がありました。秋山小学校は平和教育の一環として、昭和58年から毎年千羽鶴を届けています。式では全校児童8人が参加し、代表児童3人から児童全員で制作した千羽鶴を県原爆被害者の会副会長の郡司正明さんに手渡しました。4年生の山下季子さんは「喜んでくれるといいなと思って折った。これから命をうばうような事が二度と起こらないことを願っている」と話していました。千羽鶴は新型コロナウイルス感染症の影響もあり郵送で届けられました。